



メモリアルゲートから東館をのぞむ



Complete and Commence 学校長 飯山 等

2月14日(火)の1限と2限、中学の皆さんと高校1年の皆さんに、釈尊の涅槃会の集いでお話しする機会を与られました。前日の13日に高校入試の合格発表を終えて、入試に関連した諸事がひと段落しての涅槃会でのお話し

は、入試で緊張し硬くなっていた気持ちを一挙に解いてくれる機会となりました。入試の諸事に向き合いながら、釈尊の涅槃を憶念する時間は、きみたちに何が伝えられるか、何を考えてもらいたいのか、自分自身の若い時の戸惑いと不可解さが思い出されるとともに、自身の現在のありようも正直に反映して、お話ししたい内容が纏まらない苦しさを抱えての時間でもありました。大谷では、中学生と高校1年生を対象に、4月に釈尊誕生会(花まつり)、12月に成道会、そして2月に涅槃会と、釈尊の法会をお勤めすることを伝統してきています。それは、皆さんの学校生活の一年の進捗と、日本の季節感にぴたっと合っているように思います。しかし、その両方の相応感の中でそれらを考えることをついつい常の気分にしてしまっていることが、その本来的な意味を見えなくさせているのではないかと、符合させて考えることで、それらの肝心なところを感じ取れなくさせているのではないかとこの危惧の念が大きくなっていることも近年の実感です。

仏教を学び始めた若い頃、涅槃ということが胸に入ってきました。涅槃とは「心の静まった安らぎの境地」と辞書に説明されていても、一向に自分の腹に入らずにモヤモヤとしたものだけが胸に残っているという当時の私でした。そんなとき、金子大榮先生の「涅槃とは、一日一日の完全燃焼である」という言葉に出会い、わだかまっていた胸のつかえが少し拭い取られたように感じたことを覚えています。

最近ふと、「修了」とか「卒業」とは、言葉の厳密な意味でどのようなことを言うのだろうかという疑問が心に浮かびました。そのような時のいつもの私の癖として、言葉の原点に帰るような気持ちで辞書を開きました。今回は英語辞書からその考えるヒントをもらいました。そこで考えたことを書いてみます。まず、「修了」は言うまでもなく「終了end、close」ではありません。和英辞書を開くと、completeとあります。そして英和辞書には、completeの語は「com=完全に+plete=満たす」を成り立ちとしている語とあります。そして、それは「完全な」という意味を持つ類語perfect(間違いや欠陥がなく、同種の中で最も良い状態であること)やfull(量や程度が100%の状態にあること)に簡んで、「可能な範囲で最も程度が大きいこと」とあります。日本語で言えば、精一杯や、尽力という意味合いになるでしょう。修め了る。ややもすれば、修了ととても言えなくて、終了と自嘲的

に表現することのほうが、自身の事実を素直に表現している場面の方が多いことも偽らざるところではありますが、「修了」とは、「完全に満たす」を本義とし、そしてそれは、他者との比較対的なものではなく、自身への尊敬の念に基づいた独自で絶対的なこととしてあるとの思いを新たにしたことです。

また「卒業」についても同じように和英辞書を開くとgraduateとあります。graduateの語を英和辞書に当たると、「grade=学位」、「ate=を取る」を原義とする語で、イギリスでは大学に限られて使われ、それ以外の中学や高校はleave school、finish schoolなどと言うとあります。「学位」をあらためて辞書に当たれば「一定以上の学術能力があると認定された者に授与される資格。中世ヨーロッパの大学の教授資格に由来する」(広辞苑)とあります。これらの説明を合わせて考えると、なるほどと納得させるものがありました。ただし辞書は続けて、イギリスでも、さらにアメリカなどでも、graduateの語は高校以下の学校にも用いられるようになっていて説明を加えていました。そのように使われるに至った経緯をさらに詳しく知りたいと思ったことではあります。

ここ数年、卒業式に臨んで、素直に万感の祝意を抱くとともに、その一面において、「卒」の字が余りにも「終わる、締めくくる」という意味を強く表し、またgraduateの語が持つ高踏的な響きにもモヤモヤとしたものを払拭できないでいました。そんな時にある英語科の教員から、アメリカでは卒業式のことをcommencement ceremonyとも言うことが教えられました。commencementとは「開始、始まり」のあらたまった表現と辞書にあります。この捉え方、眼差し、「com=完全に+mence=始める」は、事の根本のありようを、finishではなく、beginとして受けとる姿勢です。「卒」の対極としてのありようです。事に臨む一人として、そこに意味される新しい地平を忘れてはなるまいと思ったことです。

しかし、眼差しを一面に向け過ぎて捉えてはいけないとも思います。しっかり了ることが、真に新たな始まりとなる。卒する(=締めくくる)ことが真の開けとなる。それが、3月と4月が持っている、きみたちの特別な意味なのでしょう。

そして、完全燃焼は、紙や乾いた木片、石油のみで為されるものではないことも事の真実として忘れてはなりません。燃えるもの、燃えるはたらきだけで、燃焼するものではありません。そこには十分な燃やすはたらき、燃やすものの存在が必要です。燃えるのがあなたであるとすれば、燃やすのは周りの存在、環境、友達です。そして、それは一方向の作用であるのではなく、双方向のはたらき合い、相互作用であることは言うまでもありません。complete、そしてcommence。そのような《われら》でありたいものです。